

市内中小企業景況調査結果（平成28年1～3月）

全般的に悪化傾向目立つ

下関商工会議所

本所では地域の景況・企業の動向を把握するため、四半期ごとに市内の中堅・中小企業50社を対象とした景況調査を実施しています。このたびは第4四半期（平成28年1～3月期）の調査結果を報告します。

- 調査時点

平成28年3月1日

- 調査対象時期

平成28年1～3月期状況、平成28年4～6月期見通し

- 調査回答企業数

市内の建設業7社、製造業6社、卸売業8社、小売業9社、サービス業10社（回収率80%）

- D I（DIFFUSION INDEX 景況判断指数）

好転の回答割合から悪化の回答割合を差し引いた数値

【概況】

市内中小企業の景況をみると、前期（10～12月期）では業種によりバラツキが目立っていたが、今期（1月～3月）では、不需要期に当たるため全般的に悪化傾向となっている。卸売業では大幅な悪化となっており、サービス業や建設業でも悪化となっているが、±0.0にとどまっている。小売業では小幅ながら悪化、製造業では好転となっているものの大幅な悪化のまま推移している。

先行きについては、卸売業とサービス業では好転するものの、製造業は悪化のまま横ばい、小売業では悪化、建設業では大幅な悪化を予想している。

- 今期（28年1～3月期）の状況（前年同期比）

全産業合計の業況D I（前年同期比）は、前期（27年10～12月期）と比較して、6.8ポイント悪化し、D Iでは△20.0となっている。

業種別の業況をみると、卸売業では37.5ポイントの大幅な悪化となり、D Iでも前期の±0.0からマイナス域に転じている。サービス業でも22.0ポイント、建設業でも14.3ポイントと夫々悪化しているものの、D Iではともに±0.0にとどまっている。小売業では2.8ポイントと小幅ながら悪化し、D Iでは△22.2となっている。製造業では7.1ポイント好転しているものの、D Iでは△50.0とかなりの悪化のまま推移している。

〔売上〕

全産業で見ると前期（27年10～12月期）と比較すると17.5ポイントの悪化となり、D Iでも△17.5となっている。

業種別にみると、小売業では3.9ポイントと僅かながら好転し、D Iでは△11.1となっている。建設業では28.6ポイントの悪化となり、D Iでも△14.3とマイナスに転じている。製造業も35.7ポイントとかなりの悪化となり、D Iでは△50.0まで悪化している。卸売業では50.0ポイントと大幅な悪化となり、D Iでも前期のプラス域から△25.0とマイナスに転じている。

〔採算〕

全産業で見ると前期（27年10～12月期）と比較して、7.1ポイント好転し、D Iでは△17.5となっている。

業種別にみると、製造業では23.8ポイントとかなりの好転となったものの、D Iでは△33.3にとどまっている。建設業でも14.3ポイント好転し、D Iでは±0.0まで戻している。小売業でも13.9ポイント好転し、D Iでも△11.1となっている。卸売業では変化なく、D Iでは△38.5とマイナス域での推移となっている。サービス業では10.0ポイント悪化したものの、D Iでは±0.0にとどまっている。

〔資金繰り〕

全産業で見ると前期（27年10～12月期）と比較して、2.7ポイントと僅かながら悪化し、D Iでは△13.2となっている。

業種別にみると、製造業では8.6ポイント好転したものの、D Iでは△20.0となっている。小売業でも4.2ポイント好転しているものの、D Iでは△33.3と悪化のまま推移している。サービス業では1.5ポイントと僅かながら悪化したもの、D Iでは11.1とプラス域で推移している。建設業でも14.3ポイントの悪化となったものの、D Iでは±0.0にとどまっている。卸売業では12.5ポイントの悪化となり、D Iでは△25.0となっている。

●来期(28年4～6月期)の見通し（前年同期比）

全産業合計の業況D Iは今期と比較して1.1ポイント悪化し、D Iでは△21.1とマイナス域で横ばいのまま推移する見通しとなっている。

業種別の業況をみると、卸売業では37.5ポイントと大幅な好転となり、D Iでも±0.0まで戻す見通し。サービス業では10.0ポイント好転し、D Iでも10.0とプラス域になる見通し。製造業では変化ないもののD Iでは△50.0とマイナス域での横ばいが続くものと予想している。小売業では11.1ポイントの悪化となり、D Iでは△33.3とマイナス幅が拡大、建設業では42.9ポイントの大幅な悪化となり、D Iでも△42.9となる見通しとなっている。

〔売上〕

全産業で見ると、今期と比較して7.5ポイントとやや好転し、D Iでは△10.0となる見通しとなっている。

業種別にみると、卸売業では37.5ポイントと大幅に好転し、D Iでは+12.5とプラス域に転じる見通し。サービス業では20.0ポイントの好転となり、D Iでは+20.0となる見通し。製造業では変化ないものの△50.0とマイナス域での横ばいが続くものと予想。小売業でも変化なく、D Iでは△11.1で横ばいとなる見通し。建設業では28.6ポイントの悪化となり、D Iでも△42.9まで悪化するものと予想している。

〔採 算〕

全産業で見ると、今期と比較して16.2ポイント悪化し、D Iでは $\Delta 31.6$ とマイナス幅が拡大するものと見ている。

業種別にみると、卸売業では8.9ポイント好転するものの、D Iでは $\Delta 28.6$ にとどまる見通し。サービス業では変化なく、D Iも ± 0.0 で推移する見通し。小売業では22.2ポイント悪化し、D Iでは $\Delta 33.3$ まで悪化する見通し。建設業では42.9ポイントとかなりの悪化となり、D Iでも $\Delta 42.9$ まで悪化する見通し。製造業では33.3ポイントと大幅に悪化し、D Iでも $\Delta 66.7$ まで悪化するものと予想している。

〔資金繰り〕

全産業で見ると、今期と比較して8.4ポイントの悪化となり、D Iでは $\Delta 21.6$ とマイナス域で推移する見通しとなっている。

業種別にみると、サービス業では変化なく、D Iでも+11.1とプラス域で推移するものと予想。卸売業でも変化ないものの、D Iでは $\Delta 25.0$ とマイナス域で推移する見通し。製造業では5.0ポイントと小幅ながら悪化し、D Iでは $\Delta 25.0$ となる見通し。小売業では11.1ポイント悪化し、D Iでは $\Delta 44.4$ とマイナス幅が拡大する見通し。建設業でも28.6ポイントの悪化となり、D Iでは $\Delta 28.6$ とマイナス域に転じるものと予想している。

●設備投資

設備投資の実施状況を見ると、前年同期(27年1~3月期:23.3%)と比較して8.3ポイント低下し、また、前期(27年10~12月期)での予想では25.0%と活発化するものと予想されたが15.0%の実績となり、沈静化している。投資状況を業種別で見ると、建設業(28.6%)において比較的活発に行われている。

来期については全体で22.5%となっており、比較的活発化するものと見ている。

●経営上の問題点

建設業では、前回圏外であった「従業員の確保難」が1位となり、2位は前回と変わらず「民間需要の停滞」が入り、前回1位の「熟練技術者の確保難」は3位に後退している。製造業では、前回2位の「需要の停滞」が1位となり、2位には前回圏外の「生産設備の不足・老朽化」が入り、3位は前回1位の「原材料価格の上昇」となっている。卸売業では、1位「需要の停滞」に変化はないものの、2位には、「販売単価の低下・上昇難」が入り、3位には「仕入単価の上昇」が入っている。小売業では、1位には前回と同様に「消費者ニーズの変化への対応」が入り、また、「購買力の他地域への流出」も1位となっている。2位には「需要の停滞」が入り、3位は、「大型店・中型店の進出による競争の激化」となっている。サービス業では、「利用料金の低下・上昇難」に加え、「熟練従業員の確保難」が1位となっており、2位には「店舗施設の狭隘・老朽化」と「従業員の確保難」が入り、3位には「人件費以外の経費の増加」が入っている。

業 種 別 D I 値 表 平 成 2 8 年 1 ～ 3 月 期

	回答企業数	業 況		売 上		採 算		資金繰り		採算(今期経常利益)
		①	②	①	②	①	②	①	②	
全 産 業	40	△20.0	△21.1	△17.5	△10.0	△15.4	△31.6	△13.2	△21.6	10.3
建 設 業	7	0.0	△42.9	△14.3	△42.9	0.0	△42.9	0.0	△28.6	0.0
製 造 業	6	△50.0	△50.0	△50.0	△50.0	△33.3	△66.7	△20.0	△25.0	△40.0
卸 売 業	8	△37.5	0.0	△25.0	12.5	△37.5	△28.6	△25.0	△25.0	37.5
小 売 業	9	△22.2	△33.3	△11.1	△11.1	△11.1	△33.3	△33.3	△44.4	0.0
サービス業	10	0.0	10.0	0.0	20.0	0.0	0.0	11.1	11.1	30.0

① 前年同期(平成27年1月～3月)と比較した今期(平成28年1月～3月)の状況

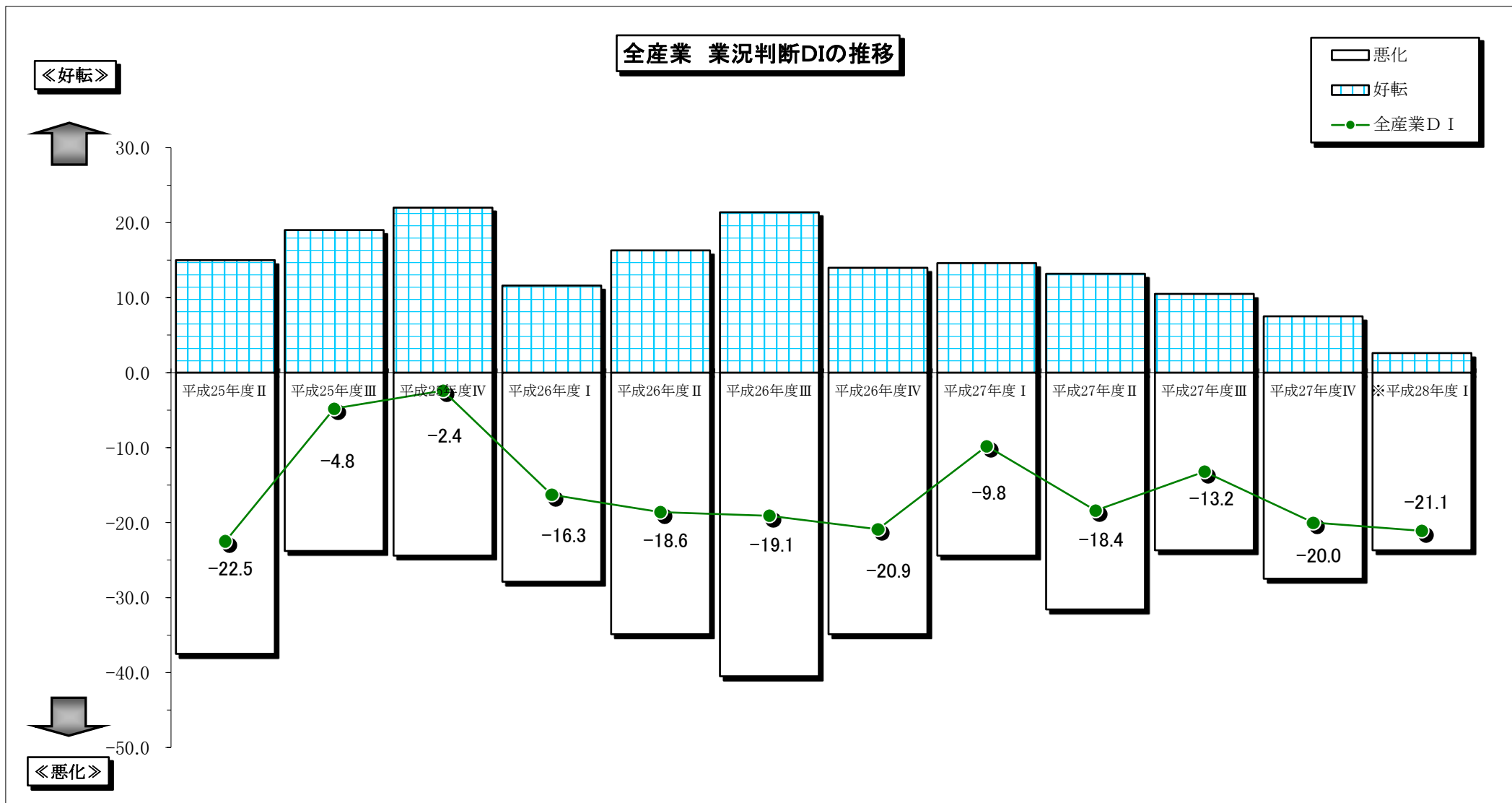
② 前年同期(平成27年4月～6月)と比較した来期(平成28年4月～6月)の見通し

直 面 し て い る 経 営 上 の 問 題 点

産 業	1 位	2 位	3 位
建 設 業	従業員の確保難	民間需要の停滞	熟練技術者の確保難
製 造 業	需要の停滞	生産設備の不足・老朽化	原材料価格の上昇
卸 売 業	需要の停滞	販売単価の低下・上昇難	仕入単価の上昇
小 売 業	購買力の他地域への流出 消費者ニーズの変化への対応	需要の停滞	大型店・中型店の進出による競争の激化
サービス業	利用料金の低下・上昇難 熟練従業員の確保難	店舗施設の狭溢・老朽化 従業員の確保難	人件費以外の経費の増加

設備投資を今期実施した 15.0%

設備投資を来期計画している 25.0%



【業況判断DI】

〈好転〉、〈不変〉、〈悪化〉の選択肢のうち、〈好転〉と答えた企業の割合から〈悪化〉と答えた企業の割合を差し引いた値。

I…4～6月期、II…7～9月期、III…10～12月期、IV…1～3月期

※前年度同期(平成27年4～6月)と比較した来期(平成28年4～6月)の見通し